

会 議 録

会 議 の 名 称	令和7年度第1回弘前市地域包括支援センター運営協議会
開 催 年 月 日	令和7年8月6日（水）
開 始 ・ 終 了 時 刻	13時30分 から 15時まで
開 催 場 所	弘前市役所 市民防災館3階 防災会議室
議 長 等 の 氏 名	梅村 芳文
出 席 者	委員：梅村 芳文、石岡 隆弘、磯木 雄之輔、成田 和博、 長谷川榮知、佐藤 八美、東谷 康生、今井 武敏、渡部 郁子、 小川 幸裕、大津 美香、長内 郁子 オブザーバー（地域包括支援センター職員）：堀川 恵、田澤 宏治、 菊谷 隆夫、佐藤 晴樹、佐藤 史、山田 宏介、白石 涼佳、 小野 直子、羽場 比呂子
欠 席 者	委員：櫻庭 仁明
事 務 局 職 員 の 職 氏 名	福祉部長 秋田 美織 介護福祉課長 工藤 信康 介護福祉課長補佐 工藤 麻子 介護福祉課長補佐兼自立・包括支援係長 伴 英憲 介護福祉課介護事業係長 吉本 照幸 介護福祉課自立・包括支援係総括主査 長尾 厚子 介護福祉課自立・包括支援係社会福祉主事 田中 佑 介護福祉課自立・包括支援係主事 齊藤 謙二 国保年金課国保健康事業係主幹 鳴海 悦子
会 議 の 議 題	（1） 令和6年度事業実績及び収支決算について （2） 令和7年度事業計画及び収支予算について （3） 地域課題について （4） その他
会 議 結 果	下記会議内容に記載のとおり
会 議 資 料 の 名 称	第1回弘前市地域包括支援センター運営協議会会議資料 資料1 令和6年度介護予防支援事業の実績について 資料2 令和6年度包括的支援事業の実績 資料3 令和6年度在宅介護支援センター活動実績 資料4 令和6年度地域包括支援センター事業実績（全体） 資料5 令和6年度各地域包括支援センター事業計画・報告書 資料6 令和6年度に把握した地域課題・取組方針 資料7 令和6年度地域包括支援センター収支決算 資料8 令和7年度地域包括支援センター事業計画（全体）

	資料 9 令和 7 年度各地域包括支援センター事業計画 資料 10 令和 7 年度各地域包括支援センター収支予算
会 議 内 容  ( 発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、 結 論 等 )	1 開会 2 会長挨拶 3 案件協議 4 その他 5 閉会
(事務局)	4 案件協議 案件 (1) 令和 6 年度事業実績及び収支決算について 〈資料 1 : P 1 ~ 6 を説明〉 〈資料 2、3、4 : P 7 ~ 5 7 を説明〉
(議長)	ただいまの説明に対し、ご質問、ご意見等ございませんか。 (質疑なし)
(事務局)	案件 (2) 令和 7 年度事業実績及び収支予算について 〈資料 8、9、10 : P 6 1 ~ 1 0 5 を説明〉
(議長)	ただいまの説明に対し、ご質問、ご意見等ございませんか。
(小川委員)	13 ページの第一包括のところで、「多重課題化した相談事例が立て続けにあり実施することが難しい」背景として、三職種の配置の見直しの検討を記載されています。この記述はこれまで見られておらず、現場の疲弊感を象徴する言葉として、大変重要かと思います。これを次の計画にいかに関係をさせていくのかということが重要と感じています。職員配置の人数の根拠としては、人口割で 1500 人に 1 人という話でしたが、これを基準とすると、現在の実数とはずれがみられ、結果、疲弊感が高まっているということが考えられます。今回の差し替え資料の 3 ページのところで、三職種 1 人当たりの担当件数を見ると三職種 1 人当たりの担当件数が第一包括さんは 42.0 となっています。この件数を見ても負担の大きさが、数字から読み取れるかと思います。後期高齢者が増加していくこれからの 10 年を乗り越えていく仕組みを短期的にも見通しを立てておかないと、大変現場の職員は疲弊をされ、地域の方々がケアを受けられていても、現場の方が離職をされていることは望ましいことではないので、職員も地域の方々も、よりよい生活を維持できるということを同時に考えていく必要があると感じております。人員配置は、予算のこともあるとは思いますが、増員が難しいのであれば業務負担を減らすなど、どちらかで対応していかないと、現状のま

	<p>までは厳しいと感じていますが、いかがでしょうか。</p>
(事務局)	<p>こちらの方でも第一包括さんは特に厳しいのではないかなと考えてもおります。けれども、財政の方もありますので、委員の方のご意見があったということを伝えて取り組んでいきたいと思います。また、事務の見直しについては、3 ページのあたりでは、委託も可能なところもありますので、そういうのも使っていただきたいところであります。</p>
(議長)	<p>よろしいですか。</p>
(小川委員)	<p>現在、大変というお話ですので、配置の基準についてはご検討をお願いいたします。</p>
(事務局)	<p>各包括さんの負担軽減のためにも、今、弘前市では重層的支援体制の構築を考えている最中でございます。また我々介護福祉課の方でもバックアップできますように、できるだけ相談に対してはいろいろと助言なり我々でも動くような形で、お互いに協力し合いながらやっていっている最中でございます。ただ、現場の疲弊感はどういう場ではございますけれども、ご意見を伺って財政当局にしっかりと予算要求の際に参考にさせていただきたいと思います。</p>
(議長)	<p>よろしいですか。第一包括の方もちょっと感想をお願いします。</p>
(第一包括)	<p>現場は非常に大変さが増しているというのが実感で、多重課題の方々がひっきりなしに来るような形で、スタッフもまだ経験の浅い者もおりますので、みんなでカバーしながらやっておりますけれども、なかなか解決に向かっていかないという現実があつて、現場は相当疲弊してきています。それに加えて事業対象者がどんどん申請ってということで、地域的に健康意識の高い方々が運動したいということであらっしゃるんです。事業所がなくなって、新たにまた運動を始めたいということであらっしゃったりもするので、そういう高齢者の意識は尊重したいと思いますし、なるべく早く対応したいと思っておりますので、委託になると、やはり探したりとかで時間もかかって、高齢者の方にご負担もかかると思っておりますので、なるべく早く対応したいという思いで今は受けているところです。ますます大変になってくるとは思うんですけども、ちょっと苦肉の策で事務パート1人を自前で雇って事務軽減に努めているところで、今、まだ検証はできていまいせんけれども、そういう意味でも予算のと</p>

	<p>ころで配分をお願いできればと考えていました。以上です。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。この地域は高齢者がずっと増えて若い人が減る全国有数の先端地域なので、今後も引き続き高齢者が増えるけど若い人が減っていくでしょう。だから、働く人を確保するのはなかなか難しくなっている。新たに人を増やしたいとしても人が来ないことが多い。柔軟な対応していただければと思っております。</p>
(事務局)	<p>補足をいたします。議長さんがおっしゃったように、人材の確保が地域では非常に難しくなっております。ですが、現場の負担感というのはもちろん把握してございますので、引き続き人材の確保、それに伴う財源確保については真摯に取り組んで参りたいと思います。あともう1点。業務負担軽減という点では、先ほど課長の方から重層的支援体制構築のお話を触れましたけれども、福祉部が中心となりまして、支援者支援の視点から、皆様の負担軽減を図るという目的で重層的な支援体制の構築を具体的に検討を進めております。いつ皆様にご案内できるかはまだ未定でございますけれども、私どももこちらを推進することで対応して参りたいと思っております。あともう1点、高齢者が超高齢化していくということで、いろんな方の身元保証を代替する仕組み等については、現在社会福祉協議会と協力しながら、独自の取り組みを進めているところでございますので、そちらについての内容が見えて参りましたら、皆様にご案内して参りたいと思います。以上です。</p>
(議長)	<p>そういうことで、この件に関してよろしいでしょうか。 続きまして、案件3の地域課題についてよろしく申し上げます。</p>
(事務局)	<p>案件（3）地域課題について 〈資料6：P58～59を説明〉</p>
(議長)	<p>それでは皆さん各包括共通の話題として、まず、認知症について、認知症の人と家族の会の世話人として、一言よろしく申し上げます。</p>
(東谷委員)	<p>さっきずっと話を聞いて、1つは、認知症サポーター養成講座について、前の会議でも多分話したと思うのですが、サポートする人はすごく増えるんですが、逆に実際認知症だという人があんまり前に出てこない。本当に理解するのであれば、ピアサポーターという</p>

	<p>かその本人が出てきてくれるといいですけど。何か地域の中でやっていただくのが一番この理解促進になればいいという話です。2 目が家族の会としても、どうしても今、現在介護している人とか、小学生中学生には行くんですけど、今のところ 20 代 30 代 40 代の方に対して、あまりアプローチをしてこなかったんです。接点がなかったんで、農福連携みたいな業種とのコラボレーションではないのですけれども、例えば、ダンスやスポーツとかで全く包括支援センターと普段接しない認知症から遠いところと接点を持つと、その全世代の理解や共通する部分があるから、ハードルを下げるのがいいと思っていました。世界アルツハイマーデーが 9 月 21 日にありまして、全国でオレンジ色のライトアップをしているんですけど、認知症ってネガティブなイメージがあるので、幸せの黄色いハンカチみたいなオレンジ色のものをちょっと飾って给我们せんか、みたいなところからでも入りやすいかなと思っています。以上です。</p>
(議長)	<p>認知症の人でその自覚がない人が多くて、地域包括でも結構困っている事例をよく聞いたりします。それを聞いたら私もこれからそうなるのかと感じております。全世代でサポートということですが、そういうサポートをしてくれない家族が多いとの話も聞いております。</p> <p>佐藤さん、認知症に何かご意見ありますか。</p>
(佐藤委員)	<p>認知症の方ほど自分は認知症でないと思い込んでいるので、こちらからの声がけが難しい。認知症の初期なのは私たちが勉強してわかっているから、そうねって思うんだけど、それをまずその本人には伝えられないっていう設定が今ありまして、身内に教えていいのかどうか、教えるのも身内が背中合わせになっているから、これもまた難しいというような人が今いて、ちょっと戸惑っているところです。以上です。</p>
(議長)	<p>家族関係が希薄になっているということが証明されている感じもしますが、いかがでしょうか。委員の方々が何か感じることはありますか。今、東谷さんが言ったのも、私もそう思いました。ただ、ちょっと難しいのは、ハードルを下げるという中で、どういうイメージでハードルを下げるのか。自分が認知症になったとか自分の家族が認知症になったとは言いにくい雰囲気があるので、声をかけづらくなっています。最初の話に戻りますが、認知症の人でも普通に話ができるんだとか、簡単なスポーツができるということで、イメージが変わるかなと思いました。この認知症のワードは、昔、痴呆</p>

	<p>という言葉でしたが、あまりにもイメージ悪いから認知症にした経緯があります。認知症にしてもイメージが同じだというのは今では感じています。テレビで最近、MCI って言葉を使ってたんですね。あれいいですね。認知症の手前の正常の間の MCI というイメージをもっとうまく使えば、むしろ治るというイメージが少しあるんですよ。一昔前は認知症と MCI が違いますっていうのは学会の話でしたが、MCI は認知症と一緒になんですよってなっちゃうと、やっぱり MCI ということがハードルを下げて治るっていうようなイメージで作っていけばいいのかなと。認知症という言葉から少しイメージ変えていく必要なのかなと思っています。先にいきましょうか。大津さん、認知症に何かご意見ありますか。</p>
(大津委員)	<p>認知症サポーター養成講座の受講者が増えている状況のようですが、先程から、人材の確保が地域では非常に難しくなってきているということが話題になっていましたので、その後について気になっていました。</p> <p>サポーター養成講座の受講者は自発的に活動するという場合もあると思いますが、受講者を人材として活用する場というのはあるのでしょうか。市などで受講者に活動の場を紹介するような取り組みがありましたら、教えていただきたいと思います。</p>
(事務局)	<p>認知症サポーター養成講座を開催していただいておりますが、テキストが令和 6 年度から変わっており、それに準拠したスライドをキャラバンメイトの方には渡しています。その中でチームオレンジについての記載があります。弘前市ではチームオレンジが 1 つあり、南部包括さんが事務局になり活動していただいているのですが、認知症サポーター養成講座受講後にステップアップ講座を受講していただいて、チームオレンジに加入していただくという形です。チームオレンジの実際のチーム員さんの方も引っ張っていくパワーのある方ようで、メンバーの方も増えておりますし、こういうふうにやっていきたいと企画のようなものもあります。昨年度その連絡会に私も参加させていただいたのですが、今、新たに食事会をやってみたり、喜びを感じながらやっていただいているようです。またこのチームオレンジについては、現在 1 ヶ所ですが、包括の方で検討していただいているところもあるみたいですし、市としても応援していきたいと考えております。今、市の方で行っているのは、チームオレンジの方へのボランティア保険をかけており、今後も活動を一緒にやっていければと考えております。</p>

(議長)	<p>ただ医学的に認知症と MCI は少し違う意味があるので、そこは理解してください。そういうことで、一応よろしいでしょうか。あと地域の孤立の問題があるのですが、事務局から説明をお願いします。</p>
(事務局)	<p>昨年度、学生さんと南部包括さんで見守り対策について、令和 6 年 8 月に調査を行っておりました。その中で、見守りを希望するという方が 15 名いらしたのですが、初めての取り組みをモデル事業として行っていることで、調査にお答えいただいた方も、どういうことなのかわからないながらも答えた部分もあったと思います。それでも見守りを希望するという方が 15 名おりましたので、今後定期的な見守りの実施であったり、誰がそれを行うのかその支援者のマッチングの問題もありましたので、2 回目の調査を包括の協力で行っております。15 名の方が希望されたのですが、調査の結果、希望されるという方が 3 名だけでした。その中にはこういった方に見守りを希望するかという項目で、包括在介であったりとか、地域の方であったりとか、誰でもいいという項目も置いたのですが、その調査での回答では希望するのは包括在介の職員ということでしたので、包括さんには引き続き見守りの方をお願いしているところではあります。せっかく先生方から提案をいただいて行った事業ではあるのですが、ちょっと次の段階に進めるのが少し難しいのかなとは思っておりますが、考察をしながら今後につなげていきたいと考えております。以上です。</p>
(大津委員)	<p>昨年度は看護学専攻の学生が南部包括支援センターの職員の皆様と同行訪問させていただきました。初対面でしたので、訪問先からはかなり警戒されたと聞きました。何度か訪問するなどして馴染みの関係となってから学生だけで見守り活動を行う方法があるかと思います。しかし、実際には難しいように思います。そのため、今年度は他の地区など、新規に実態調査を行うことがよいかと感じました。</p>
(議長)	<p>一番地域で生活に近い民生委員からありますか。</p>
(渡部委員)	<p>ひとり暮らしや高齢者夫婦への訪問はしています。中には、訪問を拒否する方もいます。新情報や変わったことがあればお知らせする約束をしていたので訪問しますが、「必要であれば自分で申し込むから」で終わりです。家族や個人のことを聞かれるのが嫌なのかなと思っています。敬老大会への参加の呼びかけにも暑い中頑張っていますが、対象者の方がお変わりないか様子を知りたいと思って</p>

	<p>いても出てこない人もいます。高齢となり、足腰が弱っている方も多く、出るのが億劫に思っている方も多くいます。でも、久しぶりに人と話ができて良かったと言う方もいらっしゃいます。友達と電話連絡をしているようです。月に1、2回や2ヶ月に1回等の訪問希望についての話もしたいのですが、いい返事はもらえませんでした。認知症についてですが、訪問していて認知症ではないかと気付き、連絡すべきか不安を感じ、早目の対策が大事だと思い包括さんに連絡した時は既に対応していただいた後でした。先日も気になる方への訪問をお願いしたのですが、すぐに対応していただき感謝しています。以前昔からの知り合いでご家族の方に直接伝え、トラブルになった話も聞いているので、認知症かどうかの判断に慎重になっているところもあります。なかなか難しいと感じています。人が代われば相手方もまた考えが違ってくるのではないかと感じています。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。民生委員も高齢化して大変でしょうけど、何とか頑張ってください。</p> <p>皆さんどうでしょうか。何かありますか。</p>
(成田委員)	<p>介護支援専門員協会の成田です。よろしくお願いします。</p> <p>冒頭に会長おっしゃった3つの柱で、本当に誰も好きで孤立になっているわけではないと思いますし、そのきっかけづくりとして、先般、うちの研修会で要支援者の個別避難計画作成ということを昨年から市役所からも協会の方に打診があって、協力をしていただきたいということもありまして、6月に実現し、協会で研修やって、参加者にもその計画の作成についてというのを皆さんに広めてあったので、今後それをちょっとまだまだ少ないとは思いますが、やはり自然災害という課題もあるわけです。そのためにもやはり地域で見守っているという安心感でもあれば、孤立感っていうのはちょっと少なくなり、安心感に繋がるのもあると思いますので、協会としては個別避難計画の作成っていうのを市役所と連携しながら、また包括支援センターとも連携しながら把握して作成していく。孤立している人達の安心につなげていきたいと思っております。ただまだ始まったばかりなので、今後協会としても一緒に協力していきたいと考えております。以上です。</p>
(議長)	<p>ありがとうございました。要は繋がりを求めているのだと、なかなかそういう繋がり持てないということなので、いろんな機会を通してよろしくお願いします。いかがでしょうか。他にいいですか。</p>



	<p>職種連携に関してどうでしょうか。ぜひ要望があれば何か言っていただければ、いかがですか。</p>
<p>(石岡委員)</p>	<p>私、実は警察協力医というのをやっています。それこそ独居で亡くなって数日たって発見される方もいっぱいいるわけです。そのためにやっぱり見回りをもう少し頻繁にやってもらって、例えばポストに新聞がたまっている、2日分位でもたまったら声がけするとか、警察とかと協力して、そういうのをやってもいいかなと。私のところにも独居の人とかも来るのですが、元気でよかったねって声をかけているんですけども。ちょっと心配でたまに電話することもあるのですが、私からできることは、その程度ことなので、できれば民生委員の方とか包括の方でもいいので、もうちょっと頻繁に見てもらえれば嬉しい。</p>
<p>(議長)</p>	<p>青森県の高齢者の孤独死は年間 520 ぐらい。これ弘前だと相当いるのだろうかということで、孤立している人達の支援は、喫緊の問題だと思います。</p> <p>どうもありがとうございます。よろしいでしょうか。</p> <p>そういったことで、様々な課題が出ましたけれども、今すぐ結論は出ないと思いますので、各団体に持ち帰って、今やっていきたいとか、課題についていろいろ話し合って、次の機会によりしくお願いします。</p> <p>それでは地域課題に終了しまして、次は案件 4 その他について事務局からお願いします。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>案件（４）その他</p> <p>〈当日配布資料 11：弘前市指定介護予防支援等の事業の人員及び運営並びに指定介護支援予防支援に係る等に係る介護予防のための効果的な支援の方法に関する基準等を定める条例及び弘前市地域包括支援センターの包括的支援事業の実施に係る基準に定める条例の一部改正について説明〉</p> <p>〈当日配布資料 12：地域密着型サービス審査部会の開催について（報告）について説明〉</p> <p>〈当日配布資料 13：弘前市地域包括支援センター運営協議会地域密着型サービス審査部会（案）について説明〉</p> <p>〈当日配布資料 14：居宅介護支援事業者による介護予防支援の指定について説明〉</p> <p>〈当日配布資料 15：令和 6 年度弘前市地域包括支援センター運営協議会保健部会実施報告）について説明〉</p>

